



## キャンパス・コラム

### 「入学おめでとう」

ひと月ほど前、他大学への受験に失敗し、失意のどん底からようやくはい上がってきたAさん、中央大学へようこそ。塞ぎこんでいた顔にようやく笑みが戻った。今日、桜舞う入学式に列席して何となく居心地の悪さを覚え、この晴れやかな講堂が果たして自分のいるべき場所なのか、浪人という選択肢もあるかもしれないと、後ろ髪を引かれているB君、多摩キャンパスへようこそ。故郷に老いた母と弟を残して上京してきたCさん、あの時、涙をぬぐったハンカチを大切に。夢はすぐにかなう。

大学とは人と出会うところである。しかも、ここで出来た友人は、これからの長い人生に少なからず関わりを持つだろう。憎しみも、愛おしさもすべてここから始まる。必ずやかけがえのない人とめぐりあえるはずだ。今日ここに

集う八千人は誰一人として同じ境遇の人はいない。いい高校からいい大学に入り、とどこおりなくいい会社に就職することだけを考えている人はおそらくほんの一握りで、中には身体のハンディキャップを撥ね退けて研究者の道を進む人、また長びく不況による家庭の事情で、さっそく今夜からアルバイトを始めなければならない人、あるいは昨年の相継ぐ天変地異により一度は進学を断念した人もいる。皆、それぞれ悩み、挫折を経験し、ある段階で己の限界に突き当たり、しかしそれを克服し、それなりに納得したり妥協したりしてここにいる。大学はゴールではなく通過点に過ぎない。存分に悩みたまえ。苦悩は若さの特権だから。